

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

別添資料10

公表:令和2年2月16日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスぼうわう

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		活動場所と、勉強場所を区切っています。	精神的に不安定な子ども安心できる場所作りとして、スヌーズレンも準備しています。
	2 職員の配置数は適切である	7			地域開放日などの地域の子どもたちも参加するイベント時は、職員の数を増やしてケガや事故の無いように工夫をしています。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7		クッション材を多用しています。	テーブルや机、ロッカーやホワイトボードの角などにはクッション材を巻いています。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		一日の振り返りを行い検討をしています。	一人の疑問や質問を置き去りにしないようにし、職員全員で利用者様への支援を行うチームとしてつねに意識をし、自己成長をコンセプトにしています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			自己満足のサービスにならないように、アンケートから見えてきた党事業所の改善点に注意を払い、迅速に対応をしました。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		HPとリタリコに掲載しています。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7		現在はしていません。	職員会議にて検討をしていきます。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		心のケアが必要な子のためにカウンセラー研修をしました。	社内研修や、外部研修にて質を高めています。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		しています。	カウンセラー有資格者や、もと支援学校の職員による面談などにて分析を行い、支援内容を常に意識して計画を練っております。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		しています。	フェイスシートやサポートブックを作成し充実した支援が行えるようにします。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7		しています。	マンネリにならないように、子どもたちからも意見を聞き入れて作成をしています。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		しています。	マンネリにならないように、子どもたちからも意見を聞き入れて作成をしています。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		しています。	マンネリにならないように、子どもたちからも意見を聞き入れて作成をしています。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		しています。	子どもたちに今必要な支援が何かを親御様とも相談して支援計画に取り組んでいます。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		しています。	日々の子どもの状況報告と指導検討会をしています。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		しています。	日々の子どもの状況報告と指導検討会をしています。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		しています。	日々の子どもの状況報告と指導検討会をしています。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		しています。	定期的に電話や面談にて近況報告をしております。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7		しています。		

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		しています。	多忙時期で参加できない際は、電話や紙面での報告を必ずしております。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		しています。	お迎え時に情報交換を必ずしております。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7		しています。	てんかん児童においては、担当医からの処方の仕方や投与指示書を頂いております。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7		しています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7		しています。	サポートブックを作成し、担当者会議があれば参加をするようにしています。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		しています。	月に3回ほど、児童発達管理者が児童相談所にてペアレントトレーニングを児童相談所のスタッフとしてしています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7		しています。	普段から地域の子どもたちとの交流の機会があり、また定期的に地域開放日を設定しイベントを行い交流を深めています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7		しています。	協議会のメンバーです。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		しています。	送迎時にお話を伺ったり、電話や面談にて相談を伺っています。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7		しています。	必要な親御様には家庭にお邪魔してのペアレントトレーニングや、カウンセリングなどのご相談を受けております。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時や質問があれば対応をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		面談や電話相談をしています。	定期的な面談や電話相談をこまめにして記録を作成し、時には相談支援事業所や区役所の担当者への報告もしております。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		定期的な地域開放日を行い保護者様も参加しております。	参加しなければならない親の会ではなく、参加しなくなる親の会を目指して地域開放日のイベント時に遊びに来ていただいております。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		非常時にはすぐに対応しています。	非常時には自発管か管理者がすぐに対応できるようにしています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		視覚支援を取り込んだ行事予定表や、遠足のしおりを作成しています。	自閉症児にも見やすいように視覚支援を取り込んだり、ルビ文字を記入し、また自分で準備ができる子には荷物のチェックリストを作成し、自立を促しています。
	35	個人情報に十分注意している	7		写真掲載許諾所を作成してくれています。	ブログに載せるさいは写真掲載許諾所を2部作製し、お互いに補完をしております。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		手話や同行援護の資格者にて対応しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		定期的に行っています。	季節の行事ごとに地域開放を行い、地域の子どもや家族様を呼んでおります。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	定期的に研修を行っています。	定期的にリーダーを決めて、感染症対応の研修を行いブログにて報告しております。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	定期的に防災センターへ遠足に行っています。	定期的にリーダーを決めて、防災・避難訓練を行いブログにて報告しております。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	しています。	虐待研修をデイの中でもしております。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	しています。	強度行動障害の利用者様もおりますが、現時点ではパニックになられても身体拘束は行わず、支援者との信頼関係で会話や環境調整で身体拘束を行わない方針で支援をしています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	アレルギー利用者様の一覧表で管理しています。	おやつ入れや、冷蔵庫の横にアレルギー利用者一覧表を張ってつねに意識しております。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	ヒヤリがあった際は必ずその日のうちに会議をしています。	ヒヤリハットが無くても、スタッフの経験からつねに予期せぬ予測を考えてヒヤリハットを出さない会議を重ねています。